

夢洲での万博は大丈夫なのか

写真は1月31日の大阪日日新聞1面。大阪府市の万博推進局が実施したアンケート調査によると、万博に行きたいと答えた人の割合が、1年前に比べ全体で10ポイント低下している。大阪府外よりも府内の落ち込みが大きい。万博開催予定まで2年余り、ふつうは開催が近づくにつれて、とりわけ地元では万博に行きたい人が増加するのに、どうしてなのか。2005年愛知万博を長らく調査してきたので、不思議でならない。



昨日3日に大阪市役所に行くと、午後から2025大阪・関西万博推進特別委員会が開催されるという。予定を変更して傍聴することにした。7階の特別委員会室で開かれた委員会は、まず万博推進局長から今日は万博開催まで800日であると挨拶があり、万博の取り組み状況などが説明された。万博への参加国・地域も着実に増加しており、2025年開催に向けた準備は順調という説明が続いた。楽観的な見通しではないのか。

続いて、おおさか維新の会の上田委員から、写真の「夢洲・舞洲における主なインフラ整備」が配布され、万博工事や開催時の渋滞対策について質問が出された。通りいっぺんの質問なので、資料をじっくり眺めていると、こんなことで、大丈夫なのか疑問が次々に湧いてきた。



万博会場の夢洲には、此花大橋を經由して夢舞大橋からの此花区側のルート、北港テクノポート線など住之江区側ルートしかない。此花大橋や夢舞大橋の改良、夢洲幹線道路改良などが実施されるとはいえ、この2ルートで万博の工事車両がスムーズに運行できるのか。大渋滞が懸念される。

とりわけ問題なのが、夢洲は大阪港最大の物流コンテナターミナルが稼働していることだ。いまでも平日には巨大なコンテナ車などで頻りに渋滞が起きている。これに万博の工事車両が加わると、どうなるのだろうか。港湾局の担当者によると、空コンテナなどは咲洲に移すので対応できると回答した。だが昨年、港湾労働者にヒアリングした時、そんな措置は現実的でないとい蹴していた。



委員会には松井市長も顔を出したが、すこし発言して退席した。万博の「機運醸成」などの質疑が続いたので、私も退席した。IRカジノとともに万博からも目が離せない。

(2023年2月4日)